

# 半日作業が約30分に。 AnserDATA PORTで 進む業務改善とDX

## ① 自然、空気、リンゴ、ワイン。魅力あふれる朝日町

JR山形駅から車を走らせること約40分。日本の棚田百選に選ばれた椹平の棚田や青々しい山々が広がる山形県朝日町は、豊かな自然と澄んだ空気に満ちた町だ。世界で唯一、空気を御神体とする空気神社は「空気とそれを生み出す自然に感謝しよう」という町民の提案から誕生している。6月5日（世界環境デー）を「空気の日」に制定し、空気まつりを開催するなど自然に感謝する精神は次世代にも受け継がれている。恵まれたのは自然だけではない。リンゴにワインと国内外で評価される特産品を説明するのは、朝日町が故郷でもある鈴木浩幸町長だ。

「朝日町は袋をかけずに栽培する『無袋ふじ』の発祥の地で、130年以上の歴史があります。袋をかけないことで太陽の光をたくさん浴びるので、甘味の深い最高品質のリンゴができるのです。2004年から海外にも輸出しています。それからもう一つの特産品がワインで、こちらも70年の歴史があります。朝日町と山形朝日農協（現さがえ西村山農協）が共同で立ち上げた朝日町ワインは、国産ワインコンクールロゼ部門で最優秀カテゴリー賞を4度受賞するなど高く評価されています。工場を見学できるワイン城も観光スポットとして人気です」（鈴木町長）



近年は、町のブランド化をきっかけにスポーツメーカーとまちづくり連携協定を締結し、人口減少や高齢化などの課題解決に向けた取り組みにも積極的だ。まちづくり連携協定の一環で導入したクールビズ用のポロシャツを着用した鈴木町長は続ける。

「他にもリンゴやブドウなど果樹農家は手を高い位置に上げて作業することが多いのですが、雨が強い日は作業着の袖口から雨が入ってきて困るという若手就農者の意見から、手首につけるリストバンドのような形をしたサポーターを開発いただいたり、アシストスーツを導入したりしています。全ては町民の利便性を考えてのことです」(鈴木町長)

## ② 申し込みから運用開始まで、約2カ月のスピード導入

金融機関で一部の電子媒体の取り扱いが終了するという直近の課題に対応するだけでなく、朝日町にとってAnserDATAPORT®の導入は町民の利便性を上げることにつながると考えられている。税務町民課長兼会計管理者の鈴木良浩氏は、AnserDATAPORT®導入の決め手をこう話す。

「当町の指定金融機関から、公金の送金にかかわる依頼をデータ伝送に移行したいと提案があり、その手法の一つとしてAnserDATAPORT®とpufure@を紹介されました。システムを導入する際に一番気になるのはセキュリティです。その点、NTTデータのシステムは山形県でも採用されていて信頼性が高いと思いましたし、公共機関専用のネットワークであるLGWANに利用できるということで、導入にGOサインを出しました」(鈴木氏)

2021年2月に指定金融機関との議論がスタートし、鈴木氏は指定金融機関が開催した勉強会に参加。それをもとに翌年度までのスケジュールや予算化など検討を重ねていった。同年4月に導入の申し込みを行い、翌月から金融機関と試験環境でテスト運用の実施。本番環境での運用を7月にスタートさせた。申し込みから本番開始まで約3カ月と短期間だ。

「実際には2カ月程度で導入までの準備を完了することができました。NTTデータの担当者さんにはメールに加えて電話でも直接対応いただいて、テスト運用からデータエラーのチェックまでスムーズに進めることができました。こちらの要望にも細やかに対応いただきながら、金融機関との調整も図っていただいたからこそ短期間で導入できたと感じています」(鈴木氏)

AnserDATAPORT®導入後は、クローズ系の基幹系PCからLGWAN系PCにデータを移行し、pufure@によってLGWANと接続されたAnserDATAPORT®を通じて、金融機関に口座振替依頼データを伝送している。

## ③ 時間短縮、リスク回避、職員のストレス軽減

以前は毎月の口座振替依頼データを金融機関ごとにDVDなどの媒体に書き込みを行い、金融機関の窓口で直接持ち込んでいた。朝日町では情報漏洩防止のため媒体へのデータ書き込みに厳しい制限がかけられており、データの書き出しを行うたびに情報管理部署へデータ書き出し禁止解除の依頼を行う必要があったという。とても時間のかかる作業であったことが伺える。だからこそAnserDATAPORT®とpufure@を介してデータ伝送している金融機関は1行のみだが、それでも「業務の効率化が進んだ」と鈴木氏は話す。

「職員が金融機関へ車でDVDなどの媒体を運ぶ作業がなくなっただけでなく、DVDにデータを書き出す時間も短縮されました。媒体の種類によっては書き出しにとても時間がかかっていましたし、エラーが発生すればやり直す必要があって、その時間や手間は職員にとってストレスでした。以前はデータを移行させて金融機関へのデータ伝送完了まで半日がかりでしたが、現在はわずか30分程度で完了するようになり、職員のストレスは減ったと思います。他の金融機関でも導入できれば、今以上に業務改善されると期待しています」(鈴木氏)

朝日町は山間部のため、雪の降る冬場は外に出るだけでも準備が大変だという。事故や媒体の紛失といったリスクを避けることにもつながった。「もう手放せない」と思うほどの変化は感じているが、「当町には高齢者も多く、デジタルが苦手な方もいます。全てがデジタルになれば良いというのではなく、どこにどう使えば本当に町民の利便性につながるのかを慎重に検討していきたいです」と鈴木氏は述べる。



鈴木浩幸朝日町長

## ④ 効率化で生じた時間を、町民の声に耳を傾ける時間に

データ伝送の体制が整備されたことで業務改善が進んだ朝日町役場だが、次の目標も見据えている。「今後はデータ伝送を行う金融機関を増やして、さらに業務改善を進めたいです。取引のある銀行がまだ4行あるので、まずは令和4年度中に3行と連携できる体制を組む予定です」と鈴木氏。

また鈴木町長は「職員への研修やDX推進計画の策定を予定しています。電子申請やキャッシュレス決済の導入も検討しており、町民の利便性向上と業務改善をより一層図っていきたい。業務改善が進めば、今まで業務に費やしていた時間で町民の声に耳を傾け、町民に寄り添った町政運営を行っていききたい」と語った。

朝日町は2005年にインターネット回線を町全体に導入した。山間部だから携帯電話も使えないでは話にならないと考えた鈴木町長は、各集落を回って町民に説明を行ったという。朝日町で育つ子どもたちはインターネットがある生活が当たり前だが、小さな前進をコツコツと積み重ねて今がある。自治体間の会議もオンラインなどで行われるようになり、DX化が雪深く高齢化率の高い自治体の将来を変える可能性もゼロではなくなってきた。

「時間や距離を超えることができるDXは本当に有効であると考えています。また、自然や空気に感謝する空気神社のある当町は、町民と行政が協働で、空気のふるさと推進協議会を立ち上げて環境に配慮した活動を行ってきました。平成30年度からは県内の町村では初めて議会と執行部にタブレットを導入し、令和2年度にはゼロカーボン宣言を行い、環境面からもデジタル化を推進していきたいと考えています。AnserDATA PORT®の導入で、毎月使用する紙の削減や金融機関への移動にかかる燃料の削減にもなりました。さらに幅広い領域でDXを推進していきたいです」(鈴木町長)



鈴木良浩 税務町民課長

## 【PROFILE】

### 山形県朝日町

山形県の中央部、磐梯朝日国立公園の主峰・大朝日岳の東縁山麓地域に位置する朝日町は、国立公園をはじめとする原生林野が町土の76%を占めている。最上川・朝日川・送橋川・大谷川などの川沿いに、10世帯から170世帯と大小さまざまな55の集落が散在している。町村合併を重ね、現在の朝日町が誕生したのは1954年で人口6,261人(2022年7月31日現在)。リンゴやワインなど特産品も多く、朝日町ワインは2016年に開催されたG7伊勢志摩サミットでも提供されている。